別紙様式

令和４年 ３ 月 29 日

教育長　様

校番 52　　大門　高等学校長
（　全日制　課程）

「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る
学科等の特色を生かしたカリキュラム開発研究指定校
令和３年度　実施報告書

１　学校の教育目標等

(1) 教育目標

県東部で唯一，理数コースを持つ普通科高等学校として，生徒一人一人に探究力をベースとした主体性，協働性を身に付けさせ，高い志を持って社会に貢献できる人材を育成する。

(2) 育てたい生徒像及び学校として育成を目指す資質・能力

・　育てたい生徒像
　【熱意】を持って主体的に行動し，自己実現を図ろうとする生徒（主体性）
　【創意】を持って探究を深め，新たな価値の創造を図ろうとする生徒（探究力）
　【誠意】を持って他者と協働し，社会に貢献しようとする生徒（協働性）
・　学校として育成を目指す資質・能力は，主体性，探究力，協働性

(3) 学科等の特色

上級学校へ進学し，社会に貢献する研究ができるようにするために，各教科・科目の知識及び技能を習得するとともに，総合的な探究の時間において自分の興味・関心に基づき社会的課題をどのように解決すべきかについて探究活動を行っている。

２　研究の概要

(1) 学科等の特色を生かしたカリキュラム開発の重点目標

・　総合的な探究の時間を核として，教科横断的に社会的課題を解決しようと探究を深めさせる。
・　理数コースの探究活動を，普通科普通の探究活動に普及させる。

(2) ３年後の目指す学校の姿

探究力をベースとした主体性，協働性を身に付け，高い志を持って社会に貢献できる人材を育成している。

(3) 令和３年度の目標

ア　アウトプット（活動指標）

・　学校として育成を目指す資質・能力について各教科・科目でルーブリックを用いて生徒に自己評価させるなど，形成的評価の充実が図られている。
・　教科横断的に基礎的読解力を高めるためのツールを探し，それを活用した取組を第１・２学年において推進している。
・　生徒が試行錯誤した探究過程をまとめ，校内で発表する場を設定している。

イ　アウトカム（成果目標）

・　見通しをもって学習し，振り返りの自己評価で肯定的評価をする生徒の割合が 70%以上になっている。
・　基礎的読解力のツールを基に取り組み，自己評価で肯定的評価をする生徒の割合が 60%以上になっている。

(4) 令和３年度のカリキュラム開発の内容及び校内体制

ア　カリキュラムの核とする教科・科目等名

総合的な探究の時間

イ　カリキュラム開発の概要

本校では，総合的な探究の時間を核として，生徒が各教科・科目等で育成する資質・能力を相互に関連付け，実社会・実生活の中で総合的に活用できるようにするための探究力及び主体性・協働性を育成するカリキュラムの開発を行う。

具体的には，次の取組①・②によって主体性を育成し，③・④・⑤によって探究力を高め，⑥によって評価・改善する。

① 広島県内の大学の公開講座，広島大学グローバルサイエンスキャンパス等の各種セミナー・コンクール，オーストラリア姉妹校とのオンライン交流への参加を促し，専門的な研究を体験するという活動を通して，課題を見いださせる。

② 総合的な探究の時間において，探究活動の中間発表を行い，自分の考えを論拠を示しながら効果的に伝えることにより，表現力を高め，自信をもたせる。

③ ＩＣＴを活用し，オンデマンドによる大学等の講義を希望分野ごとに視聴し，その報告をまとめシェアすることにより，情報活用能力を高め，協働的な学びを促す。

④ 本校理数コースの探究活動の動画を活用し，探究活動はいかにあるべきかを考えさせる。

⑤ 探究するためのベース（基礎的読解力・数理的思考力・情報活用能力）を身に付けさせるため，全教科が，各教科・科目における基礎的読解力について共通認識をもち，高めるための取組を行う。また，評論速読トレーニングを用いて，読解力の向上を図る。

⑥ 生徒の資質・能力の育成状況を評価するために，校内研修を年２回行い，ルーブリックの妥当性を検証する。

ウ　校内体制

・ カリキュラム開発を全教員が参画して行うために，各教科会議を活性化させる。そのために各教科で取り組む内容について各教科会議で協議し，その内容を教科主任会で報告し，それを踏まえてカリキュラム開発を進める。

・ 生徒の学習状況の評価についても，各教科会議で議論し，教科主任会議で評価状況を報告し，共有化を図る。

(5) 学習評価

・ 12 月中旬に，民間テストを活用して生徒の資質・能力の育成状況を測る。評価結果を生徒に返却し，生徒に自己を客観的に捉えさせるとともに，教員は評価結果を分析し，指導の改善に生かす。

(6) カリキュラム評価

・ 学校経営計画の中間評価，および年度末評価の時期に，各分掌・各教科会議においてカリキュラムを評価し，カリキュラム改善に生かす。

３　令和３年度の成果及び課題

(1) 成果

・ 公開授業研究会において，各教科・科目でルーブリックを用いて生徒に自己評価させることができた。

・ 思考力問題に取り組むことができた。

・ 「総合的な探究の時間」に課題解決のための仮説及び検証方法までの中間発表を行うことで，他グループの発表を参考にしたり質問を基に改善点を考えたりして探究の質を高めたグループが多かった。

・ 見通しをもって学習し，振り返りの自己評価で肯定的評価をした生徒の割合は 75 %となった。これは，教科によっては統一して毎時間フォームで自己評価させ，疑問点は即時対応，改善点は次時に指導を行ったことが有効であったと考えられる。

・ 基礎的読解力のツールを基に取り組み，自己評価で肯定的評価をした生徒の割合が 80 %以上となった。「速読トレーニング」に週１回取り組んだことが有効であったと考えられる。

・ 年間４回の実行委員会における大学教授の指導助言をもとに，「総合的な探究の時間」のカリキュラムについて３年間を見通したグランドデザインを作成し，ワークシートも改訂し内容の改善を図った。

・ 民間テストの３つの思考力のうち，協働的思考力が高く，批判的思考力・創造的思考力が課題である。自己

評価が高い生徒が 40 ％ 程度おり，思考力は高いが自己評価が低い生徒もいる。

・　マスタールーブリックによる生徒の自己評価も協働性がレベル３・４の割合が 75 ％ と高く，基礎的読解力はレベル２が 52 ％ である。資質・能力により多少の差はあるが，平均するとレベル２が 34 ％，レベル３が 40 ％，レベル４が 20 ％ となっている。マスタールーブリックの検証会を踏まえ，レベルの刻みを揃えることが課題である。

(2) 課題

・　年間を通して，形成的評価の充実のための評価様式を工夫する。
・　基礎的読解力を高めるツールを今後も検討する。
・　「総合的な探究の時間」の年度末発表において，質の高い質問および応答に取り組む。

４　令和４年度の目標及び取組内容

(1) 令和４年度の目標

ア　アウトプット（活動指標）

・　総合的な探究の時間と各教科・科目との関連を示すカリキュラム・マップが作成されている。
・　各教科・科目でモデレーションによる評価の適正化が図られている。

イ　アウトカム（成果目標）

・　授業評価アンケートにおける予習・復習・課題・意欲の４項目の自己評価での肯定的評価の生徒の割合が 75 ％以上になっている。
・　基礎的読解力のツールをもとに取り組み，自己評価が肯定的評価の生徒の割合が 70 ％以上になっている。
・　民間テストの批判的思考力の評価Ｂ以上が 60 ％以上となる。（今年度 50 ％）

(2) 令和４年度のカリキュラム開発の内容及び校内体制

ア　カリキュラム開発の概要

総合的な探究の時間を核として，生徒が各教科・科目等で育成する資質・能力を相互に関連付け，実社会・実生活の中で総合的に活用できるようにするための探究力及び主体性・協働性を育成するカリキュラムの開発を行う。

具体的には，次の取組の ①・②によって主体性を育成し， ③・④ によって探究力を深める。

①　広島県内の大学の公開講座，広島大学グローバルサイエンスキャンパス等の各種セミナー・コンクール，海外の姉妹校等とのオンライン交流への参加を促し，専門的な研究を体験したり，異文化交流をしたりするという活動を通して，課題を見いださせる。

②　総合的な探究の時間において，１・２年生合同の校内探究発表会において２年生が探究の成果を発表し，１年生は探究の継承及び探究の質の向上を図る。

③　本校理数コースの探究活動やポスターセッションの動画を活用し，どこまで探究するか探究の見通しをもたせるとともに，問いの背景を深く掘り下げることで質問の質を高めさせ，探究の質を高める。

④　基礎的読解力を身に付けさせるためのツールを検討し，読解力の向上を図る。

イ　校内体制

・　カリキュラム開発を全教員が参画して行うために，各教科会議を活性化させる。
・　授業における自己評価フォームを教科主任会議で共有する。
・　パフォーマンス課題及びその評価ルーブリックを教科主任会議で報告し，共有化を図る。